

表-10 幼児教育保育学科 履修系統図(図形式)

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。
 教育理念 自立・創造・真摯
 教育研究上の目的 1.幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。
 2.1.の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。
 3.1.の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることのできる豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)				1年次 春semester		1年次 秋semester		2年次 春semester		2年次 秋semester	
				授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数		授業科目名・単位数	
「教養」と「基礎」に区分し、現代社会を多面的に把握し主体的に生きる知恵としての教養と、保育者に求められる基礎・基本とを、広い視点から学ぶ。	基礎科目群	教養	1科目2単位 必修	心の充実(講)・2							
			1科目2単位 選択必修	歴史a(講)・2/歴史b(講)・2/歴史c(講)・2							
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	基礎科目群	基礎	1科目2単位 選択必修	現代社会a(講)・2/現代社会b(講)・2/現代社会c(講)・2							
			1科目2単位 選択必修	科学a(講)・2/科学b(講)・2/科学c(講)・2							
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	基礎科目群	基礎	2単位 選択	国際文化研修(演)・2							総合体育(実技)・1
			計 5単位 必修	日本語表現(講)・2 コンピュータ演習Ⅰ(演)・1 英会話Ⅰ(演)・1							
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	専門科目群	教育・保育の本質	計 6単位 必修	教育原理(講)・2	教育課程論(講)・2			保育内容総論(演)・2			
			計 5単位	保育原理(講)・2				教育制度・学校経営論(講)・2 保育指導法(演)・1			
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	専門科目群	保育内容	計 5単位 必修	子どもと音楽表現Ⅰ(演)・1	子どもと健康Ⅰ(演)・1 子どもと人間関係(演)・2 子どもと造形表現Ⅰ(演)・1						
			計 4単位	子どもと言葉Ⅰ(演)・2	子どもと環境Ⅰ(演)・2						
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	専門科目群	子どもの理解と支援	計 12単位 必修	発達心理学(講)・2 子ども家庭福祉論(講)・2 特別支援教育の基礎(講)・2	教育心理学(講)・2			子ども家庭支援の心理学(講)・2			子ども家庭支援論(講)・2
			計 10単位	乳児保育Ⅰ(講)・2	社会福祉論(講)・2 社会的養護Ⅰ(講)・2			子どもの食と栄養(演)・2 子どもの保健(講)・2			
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	専門科目群	保育技能	1単位 必修	基礎造形(演)・1							
			計 6単位	基礎音楽AⅠ(演)・1 基礎体育Ⅰ(演)・1	基礎音楽AⅡ(演)・1 基礎音楽BⅠ(演)・1 基礎体育Ⅱ(演)・1			基礎音楽BⅡ(演)・1			
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	展開科目群	教育・保育の本質	2単位 必修								保育者論(講)・2
			2単位								
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	展開科目群	保育内容	計 2単位 必修					子どもと環境Ⅱ(演)・1 子どもと言葉Ⅱ(演)・1			
			計 3単位					子どもと健康Ⅱ(演)・1 子どもと造形表現Ⅱ(演)・1			子どもと音楽表現Ⅱ(演)・1
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	展開科目群	子どもの理解と支援	1単位 必修								子どもの理解と援助(演)・1
			計 9単位		乳児保育Ⅱ(演)・1			社会的養護Ⅱ(演)・2			教育相談(演)・1 特別支援教育・保育演習(演)・2 子どもの健康と安全(演)・1 子育て支援(演)・2
「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ。	展開科目群	保育技能	計 6単位		児童文化(言語表現)(演)・1			リズム(演)・1 幼児音楽Ⅰ(演)・1			幼児音楽Ⅱ(演)・1 造形活動の展開(演)・1 舞台表現(演)・1
			計 17単位	教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)	保育実習指導Ⅰ(演) 保育実習Ⅰ(実習) 教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)	保育実習指導Ⅰ(演) 保育実習Ⅰ(実習) 保育実習指導Ⅱ(演) 保育実習Ⅱ(実習) 保育実習指導Ⅲ(演) 保育実習Ⅲ(実習) 教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)			教育実習(事前事後の指導を含む)(実習)		
それまでに修得した理論と実践に基づき、より主体的で実践的・創造的な保育へ発展させる力を身につける。	総合科目	実践と応用	計 4単位					課題研究(演)・2 ※通年			保育・教職実践演習(幼稚園)(演)・2 課題研究(演)・2 ※通年

卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)

- 1. 知識・技能**
・幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。
- 2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力**
・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。
・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。
・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。
- 3. 論理的思考力・課題解決力・創造力**
・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。
・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。
- 4. 自律性・協働性**
・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。
・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通して自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。	
教養			心の充実	講義	2	1	○		常磐短期大学の建学の精神を理解すると共に、学びの意味を認識するための学習プログラムであり、そのねらいは次の2点。 (1) 常磐短期大学の建学の精神を理解する。 (2) 学びの意義を理解し、主体的に学ぶ態度を身につける。	(1) 常磐短期大学の建学の精神を説明できる。 (2) 学ぶ意味を説明できる。 (3) 学生として社会的役割を理解し、適切に行動できる。			●			
			歴史	講義	2	1	○		ミュージカル音楽を通して、歴史的な視点や思考力を身につけるための学習プログラムであり、そのねらいは次の2点。 (1) 音楽に関する教養や基本的知識を身につける。 (2) ものごとを歴史的に認識する能力を養う。	(1) ミュージカル音楽に関する基本的知識を説明できる。 (2) ミュージカル音楽を歴史的な視点から説明することができる。 (3) 歴史に内在する多様な可能性と価値観を理解することができる。	●	◎	○			
			現代社会	講義	2	1	○		教育を通して社会について考える	教育にかかわる身近な問題について、社会全体との関係を考えつつ、深く掘り下げることを目的とする。	(1) 教育とは何かを自分なりに理解している。 (2) 教育が果たす役割を現代社会と関連付けて考えることができる。 (3) 社会をよりよくするための教育の在り方を考えることができる。	●	◎	○	●	◎
			科学	講義	2	1	○		発達行動学:動物の子育てとヒトの子育て	ヒトはほかの動物に比べると文明的な進化を上げてきましたが、ヒトも動物の一種であることを忘れてはなりません。動物の子育てを知ることでヒトの子育ての問題や課題を明らかにすることができます。	(1) 動物の子育てを知ることでヒトの子育ての問題と課題を知る。 (2) 子育てには親子だけでなく、とりまく環境が関わっていることを知る。 (3) ヒトの子育ての方法がどのように成り立ってきたかを理解する。	◎	◎			
			国際文化研修	演習A	2	1	○		世界を体験して視野を広げる	イギリスでの短期語学研修を通して、国際的視野を広げるための学習プログラムであり、そのねらいは次の3点。 (1) 日本とイギリスの文化の違いを理解する。 (2) 日常的場面の英語コミュニケーション力を身につける。 (3) 異文化理解の必要性を理解できる。	(1) 日本とイギリスの文化の違いを説明できる。 (2) 英語で日常生活のコミュニケーションがとれる。 (3) 異文化理解について説明できる。	●			●	◎
	EP100			日本国憲法	講義	2	1	○	保育者と人権/法/制度	日本国憲法および関連の諸法令の理念と内容を学ぶことを通じて、子どもの人権を守るための法的・制度的な裏付け、ならびにそれを受けた保育者の正しいあり方について理解する。	(1) 基本的人権の理念について理解する。 (2) 子どもの人権について理解する。 (3) 幼児教育・保育に関わる法律・制度について理解する。	●	○	◎	◎	○

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
基礎科目群	基礎	KS100	日本語表現	講義	2	1	○		日本語の基礎知識と表現技法	現代の保育者に求められる他者との適切かつ密なコミュニケーションを可能とするべく、日本語についてそのあり方・表現の方法を広く学び、保育者/社会人としてふさわしい言葉の用い方を学習・習得する。	(1) 日本語についての基本的なあり方を理解する。 (2) 日本語の基本的で適切な表現方法を身につける。 (3) 敬語の適切な用法の定着を図る。	● ○	 ● ◎	◎ ◎ ◎	 ○ ●
		KS104	コンピュータ演習 I	演習 B	1	1	○		IT機器の実習 - 基本と情報活用技法を中心に	近年ますます重要視されているIT機器を利用した教育の実施を可能とするべく、インターネットによる情報の収集・整理を含めた、教育活動に向けた基礎的な能力を、実習を通じて体験的に習得していく。	(1) 情報収集の能力を身につける。 (2) 情報整理の能力を身につける。 (3) PCの基本操作を身につける。	 ○	 ● ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ●
		KS105	コンピュータ演習 II	演習 B	1	1	○		IT機器の実習 - 資料作成/プレゼンテーションを中心に	保育者の営みの中で必須となる、IT機器を利用したコミュニケーションの能力、ことに資料作成の基本スキル、および効果的なプレゼンテーションの技法について実習を通じて体験的に習得する。	(1) IT機器を利用した資料作成の基本を身につける。 (2) IT機器を利用したプレゼンテーションの技法を身につける。 (3) ITを活用したコミュニケーションの基本を理解する。	 ● ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ●
	KS102	英会話 I	演習 B	1	1	○		国際理解について考えよう	本科目では、グローバル化の進展の中で英語について理解を深め、国外の文化等にも理解を深める素養を身につけること、簡易な表現の英語を身につけることを目的とする。	(1) 他国の文化・言語について多様性があることを理解している。 (2) 日常の事柄について英語で表現してみようとする意欲がある。 (3) 教育者として、今日の英語の重要性を理解している。	 ◎	 ◎	 ◎	○ ○ ◎	
	KS103	英会話 II	演習 B	1	1	○		国際理解を推進する教育者を目指す	本科目では、グローバル化の進展の中で、簡易な英語での表現を身につけたうえで、児童にも英語での働きかけができるための基礎的な力を身につけることを目的とする。	(1) 他国の文化・言語について多様性があることを理解している。 (2) 日常の事柄について、簡易な英語で表現することができる。 (3) 教育者として、簡易な英語で子どもに働きかけることができる。	 ◎	 ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ◎	
	KS101	身体活動論	講義	2	1	○		健康づくりと運動	生活習慣病予防の観点から、健康づくりのコツを学生たちに伝え、同時に、次代を担う子どもたちの健康づくりについて解説する。 (1) 生活習慣病とその予防 (2) 健康状態の把握方法 (3) 子どもの運動発達の概要 (4) 子どもの健康づくりのための身体活動	(1) 生活習慣病を予防し、健康を維持・増進するためには、どのような工夫をすればよいかを、理解している。 (2) そのための工夫を、意識的に生活の中に取り入れる方法を考えることができる。 (3) 子どもの運動発達の原則を理解している。	● ●	 ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。	
教育・保育の本質	総合体育	KS 200		実技	1	2	○		保育者の素養としてのスポーツ活動実践	保育者として身につけておきたいスポーツ活動などの方法を学び、心身の健康管理に活用する。		(1) 健康管理に留意し、積極的に活動できる。	○			
												(2) 仲間と協力しながら、練習を進めることができる。			◎	
												(3) 各グループで設定されたスポーツ活動などに求められる技能を習得している。	●		◎	
	教育原理	EP 110		講義	2	1	○		教育の目的・意義についての、基本的原則や理論的基礎を学ぶ	教育に携わるものに求められる教育という営みの本質、その歴史と思想、制度と経営、教育の目的、内容、方法の基礎と現代的動向について基礎的多面的に学ぶ。特に、子どもの教育に重点を置いて学ぶ。		(1) 教育という営みの本質、その歴史と思想について理解できる。	●			
												(2) 教育制度と学校経営の基礎について理解できる。	●			
												(3) 教育の目的、内容、方法の基礎と現代的動向について理解できる。			◎	
保育原理	EP 120		講義	2	1	○		保育学の基本的な考え方や知識を習得する	「子ども理解」「保育制度」「保育内容」等、保育に関する様々な分野について、広い視点から捉え、多様な考えに触れる機会とする。そして、それらがどのように関連しているかを学び、保育学を習得するための土台を形成する。		(1) 保育に関する基礎的な知識・技術が理解できる。	●				
											(2) 保育や子ども・保護者支援等について、多様な捉え方、考え方ができる。			◎		
											(3) 「保育者になること」について、自分なりに意識を高め、自己研鑽に努めることができる。		●		●	
教育課程論	UM 211		講義	2	1	○		子どもの理解に基づく教育課程・全体的な計画を理解する	教育課程を編成するために重要な事項として、入園から修了までの長期的な見通し、子どもの発達の状況、教育・保育施設や地域の実態、子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)等について身につけることを目指す。		(1) 教育課程・全体的な計画の基礎を理解できる。	●				
											(2) 子どもの理解に基づく保育の課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解できる。			◎	●	
											(3) カリキュラム・マネジメントの重要性を理解できる。		◎	●		
教育制度・学校経営論	EP 210		講義	2	2	○		幼児教育に関わる制度と学校経営を理解する	本科目は、社会の状況変化がこれまで、これからの幼児教育の在り方とどの様に結びついているのか理解すること、教育機関として危機管理等の視野を持つ意義と具体的な取り組みについて理解することを目的としている。		(1) 子どもの生活の変化を踏まえた教育上の課題を理解している。	●				
											(2) 幼児教育の制度について、その理念と仕組みを理解している。	●		◎		
											(3) 子どもの安全にまつわる対応方法の必要性について理解している。				◎	
保育内容総論	NR 260		演習A	2	2	○		園生活全体を通じた総合的な保育を理解する	園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識を身につける。具体的な子どもの姿と関連付けながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを理解することを旨とする。		(1) 園生活全体を通じた総合的な指導について理解できる。	◎	◎			
											(2) 保育の基本的な考え方を踏まえた保育内容の展開について理解できる		●		○	
											(3) 遊びを通して総合的に育つことを理解し、実践するために必要な知識を身につけることができる。	●				

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位数・選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
													幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
保育内容	UM	221	保育指導法	演習B	1	2	○		幼児期にふさわしい生活を踏まえた環境構成や援助を理解し、指導計画の作成ができる	子どもたちが、自分から周囲の環境に働きかけて活動を展開し、その中で充実感を味わいながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような計画的な環境の構成の在り方について学び、実際の保育の場面に生かせることを目指す。	(1) 保育の計画の意義と方法を理解できる。	○				
												(2) 幼児期にふさわしい生活を踏まえた環境構成や援助を理解できる。			◎	
												(3) 多面的な視点で観ながら実際の場で活かせる指導計画の作成ができる。	●			◎
	NR	261	子どもと健康 I	演習B	1	1	○		子どもの健康について、保育者の関わり方について学ぶ	領域「健康」を踏まえ、健康な心と体を持った子どもを育てるために、そして、自ら健康で安全な生活をつくり出すことができる子どもを育てていくために、保育者として必要な知識や環境設定、関わり方等について学修を進めていく。	(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。	●		◎	○	
												(2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。	●			○
												(3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。	●		◎	○
												(4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。	●		◎	○
	NR	263	子どもと環境 I	演習A	2	1	○		幼児期における「学びの芽生え」について学ぶ	領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につける。特に子どもを取り巻く環境と現代的課題、子どもと身近な環境との関わりについて学び、幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。	(1) 幼児を取り巻く環境と幼児の発達について理解できる。		●	◎		
												(2) 乳幼児期の認知的発達の特徴を説明できる。		◎	●	
												(3) 環境との関わりにおける数量・図形、標識・文字などとの関わり方を説明できる。		◎	●	
NR	264	子どもと言葉 I	演習A	2	1	○		子どもと言葉の世界—児童文学を中心に	領域「言葉」について、環境を通じた教育を実施するための、環境形成の能力の涵養を企図して、子どもと言葉の関わりについて、児童文学ひいては児童文化を中心とした観点から実践的に学ぶ。	(1) 児童文学をはじめとする子どもと言葉の関わり・環境について理解する。	●			◎		
											(2) 児童文学を適切に味わい、それを表現できる。		◎	●	○	
											(3) 児童文学を活用し、他の児童文化と連携させ、展開できる。	○	●	◎	○	
NR	262	子どもと人間関係	演習A	2	1	○		自立心や人と関わる力を養う援助方法を学ぶ	領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深め、子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を構想し実践する方法を身につける。他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解し、保育を構想する。	(1) 乳幼児の人と関わる力の発達について身近な大人との関係から説明できる。		●	◎			
											(2) 幼児期の遊びや生活の中で育つ人間関係の発達について説明できる。		◎	●		
											(3) 自立心、協同性の育ちについて発達の姿と合わせて説明できる。		◎	●		

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	単位選択	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
													幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
専門科	NR	266	子どもと音楽表現 I	演習 B	1		1	○		子どもの表現を豊かに引き出すために	領域「表現」の中で、特に音楽表現にかかわるねらいと内容を確認し、子どもの表現を支援するための基礎的な理念、方法を身につける。コードネームを用いた簡易伴奏法を身につけ、うたやあそびのレパートリーを増やす。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を説明できる。 (2) 子どもの表現を支援するための理念や方法を理解している。 (3) 他者と協調・協働しながら音楽活動を展開することができる。	●	◎	●	◎
			子どもと造形表現 I	演習 B	1		1	○		子どもの造形活動に関する基礎知識を学ぶ	領域「表現」のねらい・内容を踏まえ、子どもの造形活動の発達段階について学び、子どもの表現活動の発達の道筋について造形的側面から理解する。さらに「色とかたち」についての技法体験を通じ、子どもの活動を支援するための基盤となる知識を身につける。	(1) 子どもの造形表現活動の発達段階について理解している。 (2) 個々の感性の違いを知り、表現の多様性を理解している。 (3) 他者と協力して子どもの造形活動に適した表現を構想できる。	●	◎		●
	UM	230	教育心理学	講義	2		1	○		子どもの学習と適応について心理学的観点から学ぶ	子どもの学習や社会的適応に関わる基礎的知識(条件づけ、動機づけ、パーソナリティ、知能、教育評価など)を学び、それらを支援する方法について、発達のメカニズムを踏まえて考えられるようになることを目指す。	(1) 子どもの学習に関する代表的な理論の基礎を理解している。 (2) 子どもの学習を支援することの重要性と基本的な方法について理解している。 (3) 子どもの学習や適応について発達の特徴と関連付けて考えることができる。	◎	◎		◎
			発達心理学	講義	2		1	○		子どもの発達の過程および特徴について心理学的観点から学ぶ	子どもの発達に関わる心理学の理論を学び、発達を捉える視点を身につけること、運動・言語・認知・社会性の発達について基本的な知識を習得し、発達を促すために望ましい関わりについて考えることを目指す。	(1) 子どもの心身の発達のおおまかな過程と特徴を理解している。 (2) 子どもの発達に関する代表的な理論の基礎を理解している。 (3) 子どもを発達の的に理解して関わることの重要性を理解している。	●	●		
			子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	○		子どもの家庭を支援するために必要な知識と考え方を身につける	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識、親子関係や家族関係が子どもに与える影響、子どもの精神保健とその課題等について理解することを通して、保育者が家庭に対してできる支援について考えていく。	(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を理解している。 (2) 親子関係や家族関係が子どもに与える影響について基本的な理解ができている。 (3) 子どもの精神保健とその課題について基本的な理解ができている。 (4) 保育者として子どもの家庭に対してできる支援について、いくつか挙げることができる。	●	◎	●	◎

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
子どもの理解と支援	UM	UM 121	乳児保育 I	講義	2	1	○		乳児保育の意義と基本的な内容について理解する	「乳児保育」すなわち3歳未満児の保育の意義・目的について理解する。また保育所や乳児院など多様な保育現場の現状、乳児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、職員間の連携や保護者・地域の関係機関との連携についても理解する。	(1) 乳児保育の意義と目的を説明できる。 (2) 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を理解できる。 (3) 3歳未満児の保育内容について理解できる。	● ● ●	◎ ◎ ●	◎ ◎ ◎	
		UM 240	子どもの食と栄養	演習 A	2	2	○		子どもの食に関する知識を深め、食育について考える	子どもの食生活や栄養に関する基本的知識を習得し、発育・発達との関連について理解する。また、保育における食育の意義や食生活指導、アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応等についても理解し、実践できるよう学修を進めていく。	(1) 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。 (2) 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 (3) 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 (4) アレルギー等、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。	● ● ● ●	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	
	UM	UM 241	子どもの保健	講義	2	2	○		子どものための保健活動について理解する	子どもが心身共に健康に過ごしていくために、子どもの発育や発達の特徴、疾病やその予防法を理解する。また、子どもの健康状態を把握し、早期に不調に気づき、適切な対応ができるようになるよう学修を進めていく。	(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 (2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 (3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 (4) 子どもの疾病とその予防法および他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	● ● ● ●	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎	
	EP	EP 150	社会福祉論	講義	2	1	○		「社会福祉」の意義を理解し、課題について考える	基本的人権を保障するための政策や活動として存在する「社会福祉」の意義と歴史的変遷、及び制度や実施体系について解説する。また、実践分野として子どもの福祉に関し学び、社会福祉の動向や今日的課題について考察していく。	(1) 社会福祉の意義について説明できる。 (2) 社会福祉の制度について説明できる。 (3) 社会福祉の動向と課題について説明できる。	● ● ●	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	
	EP	EP 151	子ども家庭福祉論	講義	2	1	○		保育士は子ども家庭福祉にどう貢献しうか	近年多様化・複雑化する児童問題や家庭に関する課題に対し、保育士として対応できるよう、諸問題の現状と課題、子ども家庭福祉の意義、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。	(1) 現代日本が直面する児童問題の内容と背景を説明できる。 (2) 当該分野で提供される施策と福祉サービスの概要を説明できる。 (3) 「子どもの権利」を説明できる。	● ● ●	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
		EP152	社会的養護 I	講義	2	1		○	「社会的養護」の意義を理解し、子どもの自立支援について考える	社会的養護の歴史の変遷や意義について解説し、更に社会的養護の制度や実施体系、家庭に代わって支援にあたる児童福祉施設や里親制度、児童虐待の背景や被害児の行動等について学ぶ。子どもの最善の利益のための自立支援や権利擁護について理解を深めていく。	(1) 社会的養護の意義について説明できる。 (2) 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について説明できる。 (3) 社会的養護の現状と課題について説明できる。	●	◎		
		UM150	特別支援教育の基礎	講義	2	1		○	特別な配慮を要する子どもを支援する方法の理解	さまざまな障害やその他の特別な配慮を要する子どもについて学び、その成長発達を支援する制度と具体的な保育の方法を理解する。また、保護者や家庭に対する支援の必要性や、地域の保健・医療・教育・福祉の連携に基づく生涯を見据えた支援について理解する。	(1) 様々な障害やその他の特別な配慮を要する子どもについて理解できる。 (2) 障害児保育と特別支援教育の制度と、共生社会構築に向けたその意義を理解できる。 (3) 保護者支援や他機関との連携の意義を理解できる。	●	◎		
		UM352	子ども家庭支援論	講義	2	2		○	子ども家庭支援の多様なニーズに対応する	社会の変化に伴い子育て家庭に対する支援の重要性が増す中、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と方法、地域の社会資源の活用と連携、子育て支援施策等について学び、多様なニーズに対応できる知識と態度を身につける。	(1) 子育てにおける家庭の意義と機能を説明できる。 (2) 子育て家庭の現状と課題を社会状況と関連させて説明できる。 (3) 支援の施策と地域資源、サービスを説明できる。	●		●	○
		KS170	基礎音楽A I	演習B	1	1		○	ピアノの基礎技能を学ぶ	保育者に必要な技能の一つであるピアノの基礎技能を身につける。様々な伴奏パターンを身につけ、片手伴奏で演奏する力をつける。楽譜の読み方を学ぶための基本的な楽典も扱う。	(1) 基礎的な楽譜の読み方を習得している。 (2) ピアノの基礎技能を習得している。 (3) 課題を克服するために不断に努力している。	●	◎		
		KS171	基礎音楽A II	演習B	1	1		○	簡易伴奏によるピアノ弾き歌いを学ぶ	「基礎音楽A I」の内容をさらに発展させ、保育者に必要な技能の一つであるピアノ弾き歌いの基礎技能を身につける。園の生活の歌のレパートリーを増やし、簡易な伴奏で弾き歌いできるようにする。	(1) ピアノ弾き歌いのための基礎技能を習得している。 (2) 歌詞の意味を理解している。 (3) 課題を克服するために不断に努力している。	●	◎		
		KS172	基礎音楽B I	演習B	1	1		○	子どものうたで自然な発声法を身につける	保育者に必要な技能の一つである歌唱法の基礎を身につける。わらべうた、唱歌、童謡、あそびうたなどを教材とし、園の生活の歌のレパートリーを増やすとともに、喉に無理のない自然な発声法で歌えるようにする。	(1) 自然な発声法で歌うことができる。 (2) 歌のレパートリーを増やすよう努めている。 (3) 他者と協調・協働しながら活動に取り組むことができる。	●	◎		●

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向けて取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
保育技能	KS 173	基礎音楽B II	演習 B	1	2	○		子どものうたを用いた保育実践を学ぶ	「基礎音楽B I」の内容をさらに発展させ、保育者に必要な技能の一つである歌唱法を身につける。歌を用いたあそびやパネルシアター等の教材レパートリーを増やし、実践的な活動を行う。	(1) 自然な発声法で歌うことができる。	●				
										(2) 歌を用いた教材レパートリーを増やすよう努めている。	◎	○			
										(3) 他者と協調・協働しながら活動に取り組むことができる。			◎	●	
	KS 174	基礎造形	演習 B	1	1	○		造形の基礎を学ぶ -素材の知識と基礎技能-	保育者として子どもたちの表現活動(造形表現)を支援できる能力を獲得するために、「平面表現」と「立体表現」の2種類のプログラムで構成される。平面・立体制作体験を通し、素材の特性への知識や基礎的造形技術を習得することを旨とする。	(1) 造形に用いられる素材の特性について理解している。	●				
(2) 造形の基礎的技術を習得している。										●					
(3) 課題に対し真摯に取り組む、イメージを具現化できる。												●	◎		
KS 175	基礎体育 I	演習 B	1	1	○		体育分野の基礎技能の習得	実技を行う中で体力の維持向上を図ると共に、「子供の運動遊びに関連したプログラム」と「身体表現領域を学修するプログラム」で子供が行う基本的な運動を実際に行い、理解を深めていく。	(1) リズムに合わせた体の動きや身体表現の基礎を習得している。	●		◎			
									(2) 伝承遊びの良さを理解し、技を習得している。	●			●		
									(3) 練習や創作の過程で、達成感を味わう				◎		
KS 176	基礎体育 II	演習 B	1	1	○		自身の体力を高め、子どもの運動について理解を深める	自身の体力を知り、実技を行う中で体力の維持向上を図ると共に、「子供の運動遊びに関連したプログラム」と「身体表現領域を学修するプログラム」で子どもが行う基本的な運動を実際に行い、理解を深めていく。	(1) 自身の体力を知り、実技を行う中で体力の維持向上を図る。				◎		
									(2) 子どもが行う基本的な運動ができるようになる。	●			◎		
									(3) 運動を行う中で、子供たちに運動を指導することを意識し、幼児の身体活動に携わる際の基本的留意点を理解する。	●	◎	○			
教育・保	EP 320	保育者論	講義	2	2	○		子どもの発達や周囲の状況など様々な事柄を視野に入れながら、保育者の役割、倫理、連携、協働など、職務に当たる専門家としての保育者の在り方を考えていく。それらの学びを通して保育の質と保育者としての専門性の向上を目指す。	(1) 保育者の役割を理解できる。	○					
									(2) 保育者の専門性について理解できる。	●		○			
									(3) 保育者の連携・協働について理解できる。		◎	◎			

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通して自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
保育内容	育の本質	UM 310	教育方法論	講義	2	2		○	これからの未来を見据えた教育方法について考える	本科目は、これからの社会を生きていくうえで、子供たちに必要となる資質能力を育成するために、これまでの教育の方法について学ぶとともに子どもたちの情報活用能力を高める指導法について理解することを目的としている。	(1) 教育方法の基礎理論を理解している。 (2) 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 (3) 幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用し効果的に教材等を作成・提示することができる。	●			
		NR 360	子どもと健康 II	演習 B	1	2		○	子どもの健康について、運動という観点から保育者の関わり方について学ぶ	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解する。さらに、運動遊びに関する指導案の作成や模擬保育を通して、適切な指導や援助ができる実践力を身につけられるよう学修を進めていく。	(1) 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 (2) 領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 (3) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。	●			
		NR 361	子どもと環境 II	演習 B	1	2		○	身近な環境を取り入れた保育を構想し、計画する力を身につける	領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。子どもの発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定した保育を構想し、指導方法を身につける。	(1) 幼児の環境との関わり、またそれを生活に取り入れていこうとする力について理解できる。 (2) 具体的な保育を想定した指導案をつくらることができる。 (3) 様々な教材や情報機器の活用方法を理解し、保育の構想に活かすことができる。		○	●	◎
		NR 362	子どもと言葉 II	演習 B	1	2		○	乳幼児の言葉の発達を理解し、それを支える保育者の役割について、実践的・具体的に学ぶ	乳幼児の言葉の発達過程、援助や環境構成について、視覚教材や様々な教材を通して実践的に学習する。また、子どもの豊かな言葉を育むための保育者の役割について理解し、生活の中で意識できるようになる。	(1) 乳幼児の言葉の発達過程とそれに応じた援助について理解できる。 (2) 子どもの言葉を育む環境構成について理解し、実践できる。 (3) 「環境としての保育者」の意味を理解し、生活の中で意識できる。	●			
		NR 364	子どもと音楽表現 II	演習 B	1	2		○	子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を学ぶ	「子どもと音楽表現 I」の内容をさらに発展させ、より実践的な音楽表現活動を行う。サウンドスケープ、イメージを大切に表現あそび、想像力を膨らませる楽器あそびなど、子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を学ぶ。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を踏まえた実践ができる。 (2) 子どもの豊かな表現力を養うための手立てや意義を説明できる。 (3) 他者と協調・協働しながら音楽活動を展開することができる。	◎			
		NR 363	子どもと造形表現 II	演習 B	1	2		○	子どもの造形活動を支援できる実践力を身につける	「子どもと造形表現 I」で学んだ知識を基盤とし、領域「表現」のねらい及び内容について、その造形的側面について理解する。また、具体的な場面を想定した活動を通し、保育の現場で造形表現活動の環境を構成し保育者として支援できる実践的力量的の獲得を目指す。	(1) 領域「表現」のねらいと内容を造形的側面理解している。 (2) 素材の選択や技法の工夫による、表現の可能性を理解している。 (3) 他者と協働し、子どもの造形表現活動の環境を構成することができる。	●	◎		

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。	
子どもの理解と支援		UM 330	子どもの理解と援助	演習 B	1	2		○	子ども一人ひとりに応じた理解と援助をする姿勢を身につける	子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、そのための様々な視点と具体的な方法(特に観察法)について事例等を通して学ぶ。子どもの理解に基づいて支援しようとする姿勢と方法を身につけることを目指す。	(1) 子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握して関わることの意義を理解している。 (2) 子どもを理解する上での基本的な考え方を理解している。 (3) 子どもを理解するための具体的な方法を理解している。	◎				
		UM 350	教育相談	演習 B	1	2		○	子どもの適応的な生活のために相談・支援する方法を身につける	子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特徴や教育的課題を適切に捉え、子どもと保護者を支援できる保育者になることを目指す。そのために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義・理論・技法や連携の方法等)を身につけていく。	(1) 子どもの発達状況に即した支援の重要性を理解している。 (2) カウンセリングに関する基礎的な知識を理解している。 (3) 教育相談を行う上で必要な連携の内容について理解している。		◎		◎	
		UM 351	特別支援教育・保育演習	演習 A	2	2		○	障害のある子とない子が育ちあうインクルーシブ保育の実践	障害の概念、インクルージョンなど障害児保育を支える理念などの歴史の変遷を理解した上で、具体的な身体・知的・発達障害等の理解と援助方法、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの指導計画、家庭支援、関係機関との連携について理解する。	(1) 発達障害、知的障害、身体障害について概ね説明できる。 (2) インクルーシブ保育の現状を説明できる。 (3) 特別な支援を要する子どもの援助方法を理解できる。	●			○	
		UM 220	乳児保育Ⅱ	演習 B	1	1		○	乳児保育に関する基本的な知識や技術を習得し、実践場面で使えるようになる	保育者として乳児を担当する際に求められる、乳児保育に関する知識や技術を、主に事例や体験学習を通して習得する。乳幼児期は、人的環境としての保育者の存在がより大きいことをしっかりと理解し、実践的な力を身につけると共に、保育者に求められる人間性についても考える機会としていく。	(1) 乳児保育に関する基礎的な知識・技術が理解できる。 (2) 乳児の発達に応じた環境構成の在り方や援助について理解し、実践できる。 (3) 学んだことを自分の体験や実践学習に置き換えて理解することができる。	●			●	◎
		UM 340	子どもの健康と安全	演習 B	1	2		○	保育における保健的対応について実践的に学ぶ	感染症対策を含めた衛生管理や、アレルギー性疾患等への対応、また、子どもの体調不良等に適切に対応するための応急処置や救急蘇生法等、保育における保健的対応ができるよう学修を進めていく。	(1) 保育における感染症対策や衛生管理について具体的に理解する。 (2) 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 (3) 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。	●		◎		◎
		NR 250	社会的養護Ⅱ	演習 A	2	2		○	「社会的養護」の内容について理解し実践に活かす	被虐待児の実質的な受け皿となっている児童養護施設を中心に、施設養護の特性と実際について学ぶ。また、国が推進する家庭養護(里親やファミリーホーム)の実際についても学ぶ。さらに社会的養護における計画・記録・評価、相談援助の方法・技術について知識を深めていく。	(1) 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について説明できる。 (2) 施設養護・家庭養護の実際を知り、その課題について理解している。 (3) 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解している。		◎		●	○
												●	◎			

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
展開科目群	NR	350	子育て支援	演習A	2	2		○	保育現場で求められる子育て支援に関する知識・技術を習得する	保育現場で出会う保護者からの多様なニーズに保育士として対応するために求められる子育て支援に関する知識・技術について、座学のみでなく、視聴覚教材、事例検討、ロールプレイ等を通して、多角度から、かつ、より現場に近い形で学習していく。	(1) 子育て支援に関する知識・技術を身につける。	●			
											(2) 親子を取り巻く社会の現状について、広い視野を持ち自分なりに考えることができる。	●			◎
											(3) 様々な子育て支援の在り方について理解し、実践する力を身につける。				●
	NR	267	リズム	演習B	1	2		○	音と動きによる表現活動	エミール・ジャック＝ダルクローズの提唱した「リズム」の理念に基づき、音と動きによる表現活動を行う。全身でリズムや音を感じとり、自らの表現に結び付ける。その体験から得た「気づき」や「感性」を生かした指導法を考えていく。	(1) 音と動きによる表現活動の意義を理解している。	●			
											(2) 全身でリズムや音を感じとり、表現することができる。		◎		●
											(3) 音と動きによる表現を生かした指導法を考案できる。			●	◎
保育技能	KS	270	幼児音楽Ⅰ	演習B	1	2		○	ピアノ弾き歌いの基礎を学ぶ	「基礎音楽AⅡ」を発展させ、弾き歌いのための基礎技能を習得する。子どものうたの歌詞の意味や曲の背景を理解しながらレパートリーをさらに充実させる。	(1) ピアノ弾き歌いのための基礎技能を習得している。	●			
											(2) 歌詞の意味や曲の背景を理解している。	●	◎		
											(3) 課題を克服するために不断に努力している。		◎	○	●
	KS	370	幼児音楽Ⅱ	演習B	1	2		○	ピアノ弾き歌いの実践を学ぶ	「幼児音楽Ⅰ」を発展させ、弾き歌い技能の習得を目指す。子どものうたのレパートリーをさらに充実させるとともに、実践的な指導技術も併せて学ぶ。	(1) ピアノ弾き歌いのための技能を習得している。	●			
											(2) 実践的な指導技術を身につけている。	●	◎		
											(3) 課題を克服するために不断に努力している。		◎	○	●
KS	360	造形活動の展開	演習B	1	2		○	表現活動の可能性の広がりを知り、保育に活かす	「遊びの活動を豊かにするために有効な玩具の製作体験」・「造形表現の多様性を知るための技法体験」を通して、保育者として子どもたちの造形活動を展開していくために必要な知識・技能の習得を目指す。	(1) 子どもの造形活動に有効な教材についての知識を有している。	◎	●			
										(2) 身近な素材を用い子どもの遊びの活動を企画できる。			◎		
										(3) 他者との意見交換をし、造形素材の選択や技法の工夫をし、造形活動を展開できる。		●		●	
KS	370	舞台表現	演習B	1	2		○	舞台における表現を学ぶ	舞台表現の基礎を学ぶ。ステージ発表に向けて発声法・呼吸法の学習・トレーニングを行い、アンサンブルの楽しさを味わう。舞台上での所作・演技を身につけ、総合表現としての舞台芸術を学ぶ。	(1) 発声法・呼吸法を習得している。	●	◎			
										(2) 周りの音をよく聴きながらアンサンブルを楽しむことができる。				●	
										(3) 表現について多面的な視点で捉えることができる。		◎	●	○	

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性	
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。	
実習		KS 271	児童文化(言語表現)	演習B	1	1		○	児童文化の受容・理解・創造	子どもを取り巻く環境としての児童文化への理解を深めるとともに、子どもの心身の発達に資するべく生活・遊びを豊かに展開するのに必要な知識と技術を、領域「言葉」を中心に、実践的に習得する。	(1) 児童文化の基本的概念・あり方・意義を理解できる。 (2) 「言葉」領域の児童文化について適切に味わい、理解する。 (3) 児童文化の展開を自ら実践できる。	●		◎	○	
		NR 382	保育実習 I	実習A	4	1・2		○	子どもへの理解を深め、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。	実習施設において、観察や一緒に遊ぶことを通して、乳幼児の発達を理解したり、生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得したりして、保育士の仕事についての理解を深める。	(1) 実習生としてふさわしい態度・意欲をもって実習に取り組むことができる。 (2) 観察や一緒に遊ぶことを通して、乳幼児理解を深めることができる。 (3) 保育所の社会的役割や一日の生活の流れ等、保育士の仕事について理解し、一部分を実践することができる。	●			●	
		NR 383	保育実習指導 I	演習B	2	1・2		○	○	保育実習 I の事前および事後指導	保育実習の意義・目的、実習内容を理解した上で自らの実習における課題を明確にするとともに、実習施設を利用・入所する子どもの人権擁護、保育者の職業倫理を理解する。また計画や記録の方法を理解し、総括を行うことで各々の課題と次の目標を明らかにする。	(1) 保育実習の意義・目的・内容を理解している。 (2) 実習施設を利用・入所している子どもの人権擁護、保育者の倫理を理解している。 (3) 実習の計画や記録の方法を理解し自らの課題を明確化している。	●	○		◎
		NR 384	保育実習 II	実習A	2	2		○	保育士の仕事を総合的に理解し、実践する力を習得する	「保育実習 I」の内容に加え、家庭や地域との連携、特別な配慮を必要とする子どもや保護者への支援等も含めて、保育士の仕事を総合的に理解し、現場で実践できる力を身につける。	(1) 保育者としてふさわしい態度・意欲をもって実習に取り組むことができる。 (2) 保育士の仕事を総合的に理解し、保育士の助けを得ながら実践することができる。 (3) 保育所における保護者支援及び地域と連携について理解できる。	●		◎	●	
		NR 385	保育実習指導 II	演習A	1	2		○		「保育実習 II」に必要な内容を習得する	「保育実習 I」で得た反省や課題をふまえ、より実践的・総合的に保育について学習し、現場で実践できる力をつける。	(1) 保育実習 I の反省を踏まえた保育実習 II の課題を明確に持ち、課題の克服に努めている。 (2) 子どもの興味や発達を考慮して保育教材を選択し、立案し、実践することができる。 (3) 実習の計画や記録の方法を理解し、適切に行うことができる。	●		◎	●
		NR 386	保育実習 III	実習A	2	2		○	保育所以外の児童福祉施設での実習	既に学んだ教科目や実習の経験を踏まえ、保育所以外の児童福祉施設での実習を重ねる。実習での実践を通して、多様な背景をもつ子どもを理解し受け入れ対応する態度や、知識・技術を身につけ、地域との関わりや他職種との連携についても体験的に学ぶ。	(1) ソーシャルワーク実践を通して施設の実践的役割を理解できる。 (2) 施設保育士の専門性について説明できる。 (3) 多様な背景を持つ子どもを理解し受け入れ対応する態度を身につけている。		●		○	●

2021年度常磐短期大学 履修系統図【幼児教育保育学科(2020年度以降入学生)】

学修成果(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

科目群	科目区分	科目番号	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春セメ	秋セメ	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1. 知識・技能	2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力	3. 論理的思考力・課題解決力・創造力	4. 自立性・協働性
												幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。	・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。 ・内省を通して自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。 ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。	・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。 ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。	・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。 ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。
	NR 387	保育実習指導Ⅲ	演習 A	1	2	○			保育実習Ⅲの事前および事後指導	保育所以外の児童福祉施設で行う実習の意義と目的を理解し、保育者としての総合的な学びが得られるよう、子ども・利用者に応じた適切な関わり、計画・観察・記録等の具体的な実習の方法を学ぶ。また事後に総括を行い自己の課題を明確化する。	(1) 施設実習の意義・目的・内容を理解している。	●			
											(2) 実習施設を利用・入所している子どもの人権擁護、保育者の倫理を理解している。	○			●
	NR 380	教育実習(事前事後の指導を含む)	実習 A	5	1・2	○	○		子どもとのかかわりを通して、保育者としての専門性と実践力を身につける	大学で学んだ理論や指導方法等を基礎に、子どもと直接触れ合う生活の中から子どもの発達に即した保育の在り方や幼児理解を深め、実際に保育者として勤務できる専門性を身につける。	(1) 事前指導及び実習を通して、保育に関する基礎・基本を身につけることができる。	●			◎
											(2) 実習を通して、子どもの発達や保育の在り方を理解できる。		◎		◎
総合科目	NR 381	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習 A	2	2	○		「教師論」「個と集団を育てる学級経営」「保育実践力の向上」について学ぶ	保育現場に近い授業環境のもと、今までに習得した知識・技術等を活用・応用できる学習を通して、さらなる実践力の向上を目指す。	(1) 理想とする保育者像を具体的にイメージして、それに近づこうと努力できる。		◎		●	
										(2) 個と集団を育てる学級経営、保護者への対応、安全計画・保健計画に関して、実践的に学び活用できる。			●	●	
	KS 390	課題研究	演習 B	2	2	○	○	保育者の資質としての実践力、協働性、多様性を身につける	実習や保育現場で実際に子どもたちと行う活動に対して役立てられるよう、様々な角度から学び、特に、主体的、積極的、協働的に活動を進めていく中で、社会人として社会貢献等について行ける力を身につけていく。	(1) 計画、準備、実践、記録という一連の流れを自ら考えて実践できる。		●			
										(2) 新しい気づきや多面的な視点、判断力・協働力を身につけることができる。			●	◎	
									(3) 保育者としての資質を実感をもって理解し、実際の場で活かすことができる。		◎				